

## リスクコミュニケーション推進に関する取組の今後の進め方について (リスクコミュニケーション検討部会における議論の取りまとめ)

### 1. 野生生物観察事業について

#### (1) 成果の概要

子供たちが自然に親しむ、野生生物の生態に目を向ける、という点では一定の役割を果たした。

#### (2) 課題

- ・内分泌かく乱作用、化学物質との関連という観点が十分でなく、趣旨が明確でない。
- ・同趣旨の他事業と重複している部分があり、環境省の事業として整理が必要である。

#### (3) 今後の進め方について

- 野生生物の観察事業は、これまで実施した内容では、化学物質の内分泌かく乱作用との関連を必ずしも明確にすることができなかった。一方で、化学物質と野生生物への影響について考える機会を与えるという観点からは、本事業のようなリスクコミュニケーションも重要である。限られた予算の中での効率的な実施を図るため、今後は他部局で行われている同趣旨の事業（こどもエコクラブ、全国水生生物調査など）に化学物質の影響という観点を加えるように働きかけ、既存のプログラムとの連携において取組を進めていくべきである。
- 野生生物の観察を行う上でのアドバイスを記載したマニュアル等を作成することを検討してはどうか。

### 2. ホームページについて

#### (1) 成果の概要

一定のアクセス数も得られており、内分泌かく乱物質の問題に関する情報提供の媒体として役割を果たしている。

#### (2) 課題

- ・ホームページのタイトル「ED サイト」が、別の意味の検索語と誤解され、必ずしも内分泌かく乱作用に関する情報を求めている者に提供されない可能性がある。一方で、一般的によく知られている、いわゆる「環境ホルモン」という用語を使用してもよいのではないか。
- ・これまで十分なユーザーの情報が得られていないため、改善に当たって、何が求められているかを十分に把握できていない。
- ・「公式サイトとは異なる中立的なサイト」という位置付けの下、掲載されている意見は両論併記となっているが、必ずしも中立的な意見を掲載しているわけではなく、提供する情報については検討する必要がある。

- ・市民の関心は、内分泌かく乱作用の問題に限らず、もう少し広い範囲の家庭における化学物質の情報であり、現在のホームページのコンテンツにももう少し広がりを持たせる必要がある。

### (3) 今後の進め方について

- より多くの人アクセスして有効に利用できるようにするため、ユーザーの属性や要望を把握するための取組を行い、既存ページの充実化を図る必要がある。具体的には、身近な製品に関連したコンテンツの新設やデザインやタイトルのリニューアルなどが考えられる。
- ホームページ全体としては、現在のサイトのユニークな部分を残しつつ、掲載する意見については更新時期や内容について、中立的な立場を保てるように配慮していく必要がある。

## 3. シンポジウム等について

### (1) 成果の概要

内分泌かく乱作用に関する有益な情報提供の場となっている。

### (2) 課題

- ・本シンポジウムでは専門家による講演が多く、一般市民からの意見を受ける機会が少なかった。
- ・多くの参加者を集めるための周知等が不十分だった。
- ・現在の予算では、同規模のシンポジウムを開催することは困難である。

### (3) 今後の進め方について

- 大規模なシンポジウムではなくても、関係学会との連携などにより、一般向けに研究成果の発表などを継続的に行えるように検討していく必要がある。
- シンポジウムの開催については、市民に情報提供を行う場として重要であるため、一定の成果がまとまった時期などに開催できることが望ましい。

(参考)

リスクコミュニケーション関連予算の推移

(単位：百万円)

17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度 (政府原案)
52	67	70	66	11	4

内分泌かく乱作用関連予算の推移

(単位：百万円)

17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度 (政府原案)
751	546	460	430	267	259